



総合通信基盤局電気通信事業部
データ通信課企画係長

井上 紗希

INOUE SAKI

平成 25年 4月 総務省採用

情報通信国際戦略局国際経済課

平成 27年 8月 大臣官房総務課

平成 29年 7月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課重要無線室

平成 31年 4月 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課重要無線室

主査

令和 元年 7月 現 職

情報通信を通じて課題に取り組む

快適な電気通信サービス利用のために

みなさんは普段、どのような電気通信サービスを利用しているでしょうか。インターネットに接続する、メッセージのやりとりをする…これらのサービスを提供する事業者を電気通信事業者といい、総務省がその監督を行っています。

総合通信基盤局では部局一体となって、良質な電気通信サービスが実現され、多くの方が快適にサービスを活用できるように制度整備や運用に取り組んでいますが、その中で私は、様々な制度適用の端緒となる、電気通信事業者の届出制度を担当しています。

届出と聞くと、単調な書類処理業務のような印象を持たれるかもしれませんが、決してそのようなことはありません。この分野では、新しいビジネスモデルやサービスが次々と登場しており、事業者の方から話を聞き、実態把握をしながら制度との適用関係を整理していくことが必要です。事業者との対話はとても刺激的で、日々知識のアップデートをしながら仕事に励んでいます。

あらゆる活動を支えるツールとしての情報通信

情報通信という大きな可能性を秘めたツールを通じて、色々なことに挑戦できるのが総務省の大きな魅力の一つです。

私は、大学時代には、表現・文化を専攻しており、音楽の文化史などの勉強をしていました。情報通信とは無関係に思えるかもしれませんが、例えばCDなどのパッケージメディア中心から、配信楽曲のダウンロードや、ストリーミングサービスの利用というように、人々の音楽の聴き方の変化にも、情報通信技術が発展して高速・大容量の通信環境が普及したことが大きく関わっています。

今や情報通信は、あらゆる社会・文化・経済活動を支えるツールです。みなさんが好きなもの、興味があること、その中に情報通信技術が使われている場面はないでしょうか。あるいは、更に情報通信技術が発展すれば可能性が広がる場面はないでしょうか。ぜひ一度、情報通信に注目してまわりを見てみてください。総務省なら、情報通信というツールを通して様々な分野の発展や課題に挑戦することができます。

Q 今までで一番印象に残った仕事は？

A 無線の免許を担当していたとき、実地検査として、実際に免許した無線が使われている警察署へ動作状況等を確認しに行く機会がありました。

実際に日常の暮らしを守る場面で自分たちの関わったものが重要な役割を果たしていることを実感し、それ以来、街中や身の回りで情報通信が活用されている場面をより意識するようになりました。

Q 将来、どのような仕事に挑戦したい？

A これまでは制度作り中心の部署での勤務が多かったため、より現場に近い地方支分部局や違った視点を持てる地方公共団体などの勤務地を経験したいと思います。幸いそのような出向の機会も多くあり、同僚の中にもそのような勤務地を経験している人もいますので、チャンスはあると思っています。様々な視点から物事を考えられるようになることで、情報通信分野の行政官としてスキルアップしたいと思っています。

Private
Time

大学時代の部活動の経験を活かし、週末はアマチュアオーケストラに参加して、年2回の演奏会に向け音楽仲間と楽器の練習をしています。幅広い年齢層、ライフステージも職種もばらばらな友人たちと、時に音楽に没頭し、時には人生相談にも乗ってもらい、リフレッシュと良い刺激をもらえる場になっています。

